LeaD *(Learning as Development for All)* 通信　　No.3

発行　２０２６．１１.２０



みなさん、こんにちは。今年度もルワンダの幼児に関する包括的支援（ECD）を中心に下記の役員を中心に活動しております。今年度もご協力よろしくお願いいたします。

理事長　小野 由美子（Yumiko　Ono）



専門分野：比較国際教育（教師教育・就学前教育）／保育士資格保有

教育は、教えることより、学べる環境をつくることから始まる――そう考えています。比較国際教育・教師教育の研究に長く携わり、現在はルワンダの農村部で、身近な素材を使った遊びを通して幼児が数や形に出会う活動と、養育者の実践を支える研修に取り組んでいます。大切にしているのは、外から「正解」を持ち込むのではなく、現地の人とともに、続けられる学びの仕組みをつくること。「どこに生まれても学びの機会を」を、理念で終わらせず、現場で形にしていきたいと思います。

副理事長　宍戸 なつ美（Natsumi　Shishido）



専門分野：洋裁（婦人・子ども服）

30 数年前に、青年海外協力隊としてルワンダに行って以来、ずっと関わりを持ってはいましたが、LeaD に入ってからは、また違った角度からルワンダを見ることができ新鮮です。
今年は 11 年ぶりにルワンダを訪れ、ECD のお母さん達に身近な布を使ったお手玉作りを教えてきました。とても熱心に、楽しんで作っていたのが印象的でした。これからも、自分の経験や繋がりを大事にしながら、ルワンダの人々との新たな関係を作っていきたいと思います。

理事　江藤 和子（Kazuko Eto）



専門分野：　看護学（環境問題・アルコール関連）

専門性を退職後にも生かせる道を選び、LeaD 2 年目となりました。目指すのは、「誰もが笑顔にあふれ、子どもの健やかな成長を支える環境」です。社会課題は簡単に解決できるものではありません。しかし、ルワンダへの思いと志をともにし、たがいに信じて託し合うメンバーと力を合わせれば、社会に大きな変化を生むことができると信じています。

そして、自分の弱い分野を補いながら得意分野を磨き、挑戦する私にとって、LeaD は今の居場所となっています。

理事　松山 匡延（Masanobu Matsuyama）



専門分野：　教育（理数科教育）

初めて国際協力に携わったのは、20 年前に青年海外協力隊（JOCV）としてルワンダで活動した事でした。それ以来、同国含む東アフリカの教育案件等に従事し、5 年前に ECD 教育調査でルワンダ全土を調査して回りました。そして、首都が発展していく一方、20 年前と変わらない農村の姿に課題意識を持ち、特に ECD の重要さを感じました。LeaD では、草の根の活動の強みを生かして、LeaD のメンバーや現地の人々と共に、例え小さくとも確実に地方農村の ECD を改善していくことが目標です。

理事　中山 功人（Norito Nakayama）



専門分野：　初等教育（数と言葉）

工学部を出て半導体設計に携わった後、ザンビアで協力隊の理数科教師になったのが私の原点です。以来３０年、セネガル・ルワンダ・エチオピアなどで算数・理科教育や教材開発に携わりました。

LeaD では初等教育、特に「数と言葉」を担当し、就学前から小学校へ学びをつなぐ手作り教材で、ルワンダの子どもたちの「わかった！」を増やしていきたいです。

監事　森山 康子（Yasuko Moriyama）



専門分野：　日本語教師　ライター　イベント関係

この度の LeaD 拓殖大学研修は私にとって　LeaD の活動を実質初めて間近に感じた場となりました。日本での留守番役として共に思いを共有できたことは私にとっての発見と学びでした。LeaD メンバーの純粋な情熱と果敢な行動には本当に仰ぎ見る思いです。その純粋な流れの一分にでも連なっていきたいと思います。



身近な素材から、学びが育つ

― ルワンダ・ルラミラにおける ECD 養育者研修 ―

２０２６年 8月 ２６ ～２８日、ルワンダ東部州カヨンザ郡ルラミラ・セクターで、ECD養育者１２名を対象に研修を行いました。段ボール、ペットボトル、ボトルキャップなど地域で手に入る素材から、ドットカード、 サイコロ、１０マスボード、ペットボトルけん玉を製作。 目指したのは「数字を教える」 ことではなく、子どもが遊びながら「 １・２・３ 」の数量に出会う環境を、養育者自身がつくれるようになることです。

「作れる」「試せる」という手応え



養育者による教材手作り

参加者は3日間、時間を守って熱心に取り組み、2日目には余った段ボールで自分のセンター用の教材を自主的に作り始める姿も見られました。参加者からは保護者や地域の人に段ボールやキャップを集めてもらう案も出ました。外から教材を持ち込むのではなく、地域の中で作り続けられる可能性が見え始めています。

養育者の声「短時間で、たくさんの教材を作れたことに驚いた」

「幼い子どもはすぐに飽きる。遊びながら学べば、疲れずに学べるので、とても大切」

子どもの反応を見て、やり方を変える



手作り教材で実習中

3日目は New Vision ECD Center で実際の子どもたちと活動しました。 3歳前後の子どもたちには難しい活動もありましたが、 サイコロには関心を示し、けん玉が入った子どもは嬉しそうな表情を見せました。屋外担当の養育者も、１ 回目の経験を受け、 2回目には子ども同士が見えやすい円形に座らせ、糸が絡まないよう間隔を取るなど、自分たちで改善しました。「うまくいかなかったこと」も、子どもを見て次を変えるための大切な材料になりました。

研修直後の変化

自己評価の平均は３．９２から ４．３６へ上昇。特に「大人数でも小グループ活動を運営できる」は３．２５から ４．５０に高まりました。１２名全員が「1週間以内に試したい」と回答しており、実践への意欲の高さもうかがえます。

1 か月後、現場で見えた芽

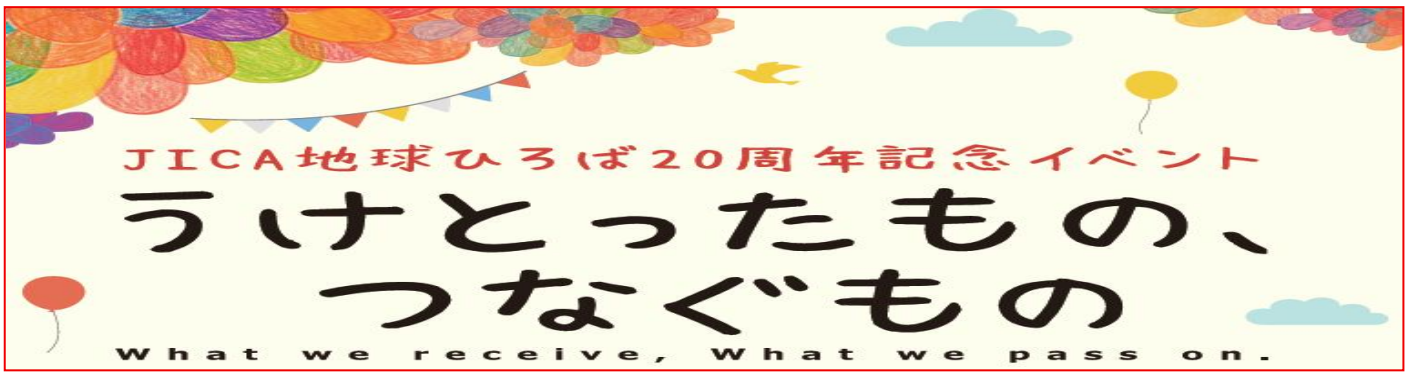


キャップが帽子に変

9 月 21 日の訪問では、養育者 A さんが「ドットカードとキャップを毎日使っている」と話しました。 子どもたちはキャップを並べ、 積み、 集め、「 車」 に見立てて遊びます。現地コーディネータのよる教え方の手本を見た後、養育者Aさんは「自分はたくさん話していた。子どもが考える時間がないと気づいた」「次は、キャップで遊ぶ時間をとり、話しすぎないようにしたい」と語りました。

次の一歩へ

Sector Officer からも「今後も継続してほしい」との声が寄せられました。身近な素材、子どもの姿をよく見ること、そして小さな改善を重ねること。そこから、地域に根づく学びを育てていきます。



6月13日(土)にJICA地球ひろばにて行われたJICA 20周年のイベントにLeaDとして出展させて頂きました。



イベントに先立ち、私たちは初めてのLeaDオリジナルTシャツを製作、販売しました。ルワンダの子どもたちの絵　シルバーバックのゴリラを入れた　教育的なデザインです。



またイベント中にはパラパラ漫画でお馴染みの鉄拳さんがブースに訪れて下さり　一緒に写真を撮って下さり、大感激でしたー！

中でも心に残ったのは　ある小学生の男の子でした。

彼はクビからお財布を下げて来て　象🐘800円を自分のお小遣いで買いたいと. 撤退の作業をしている時です。

判断で半額の400円に値下げすることに。彼のお小遣いは300円。そこにお母さんとお父さんがやって来て　100円を足してくれて無事象🐘を購入。



彼はうれしそうに「これアフリカの支援になりますか？」「ええ、ルワンダの子ども達の支援になりますよ」「僕も絶対ルワンダに行きますねー」と手を振って帰って行きました。

私にとってイベントをする大事さを感じる出来事でした。

今回JICA 20 周年のテーマは「知っていくこと　広がっていくこと　つながっていくこと」でした。

テーマにもリンクして　小学生の男の子に代表されるさまざまな人達と触れ合い　私にとっても意識を啓発　刺激を頂けたイベントとなりました。

森山康子







ルワンダで出会う、想像を超えた自分の可能性

ルワンダ研修実施報告

LeaD が目指す「学びを通じて誰もが成長できる社会」の実現に向けて、教育や子どもの発達（ECD）、水・衛生、医療、開発課題を現場（ルワンダ）で体験していただく、学びと行動を結びつける研修です。LeaD がこれまで培ってきたルワンダでの経験を生かし、参加者の関心や学びの目的を踏まえてプログラムを構成しました。

海外に行くなら、観光だけではなかなかできない経験もしてみたい。現地の人たちと交流し、その土地で暮らす人々の生活や考え方に触れてみたい。そんな方に、LeaD のルワンダ研修を紹介します。



2026 年夏、拓殖大学の学生 12 名がルワンダを訪れました。現地では、子どもたちとの交流や農村家庭への訪問、国際協力現場の視察など、様々なことを経験しました。今回、拓殖大学主催のルワンダ研修を全面的に支援したのが、私たち LeaD です。

参加者は 2 年生から 4 年生までの大学生たち。初めての海外がこのルワンダという学生もいたのは驚きでした。昔と比べ、ルワンダも身近になったものですね。将来国際的な舞台に立ちたいと希望する人や、既に足を踏み入れている若者たちも参加していましたが、皆さんアフリカは初めてということ。ルワンダ現地 10 泊 11 日間で、以下のスケジュールでした。

海外に出て初めて目にする風景や、これまで接する機会のなかった人々に出会う。そこには、事前に調べただけでは分からない発見があります。ここでは、実際の研修の様子と共に、LeaD が大切にしている学びについて紹介します。

現地スケジュール

日　付	内　　容
8 月30日 ～31日	成田国際空港（20：40）から、仁川・アディスアベバを経由して、キガリ国際空港（9：50）へ
9月1日	JICAルワンダ事務所訪問　日本の国際協力/Kicukiro District事務所訪問　地方行政の話/ ジェノサイドメモリアル視察
9月2日	キガリ大学　キャンパス内見学/キガリ大学法学部長講演　ルワンダのガバナンスに関する話
9月3日	東部州へ移動 JICA海外協力隊視察　コミュニティ開発（障がい者支援）/Zipline視察　ドローン見学
9月4日	GAHIMA christian academy 草の根無償サイト（学校建設）/Hirwa Foundation ECDお宅訪問 Akagera Good Neighbors　現地NGOの活動視察　子どもたちと交流　一般家庭訪問
9月5日	JICA海外協力隊視察　水場見学　コミュニティ開発（水の防衛隊）/ Ready for Reading 活動視察文化体験
9月6日	Akagera国立公園/　首都へ移動/
9月7日	Tumbaへ移動 RP Tumba College訪問　ODAサイト（技プロ　無償）/ICT省訪問　ICT等国家開発の話
9月8日	Rwamaganaへ移動/　Saint Tarcisius school 幼稚園・小学校授業見学　生徒と交流活動/ Kicukiro District 事務所　研修報告　Certificate授与
9月9日	日本大使館　日本の国際協力概要/ODAサイト　給水施設現場の視察
9 月10日 ～11日	キガリ国際空港（17：40）から、アディスアベバを経由して、成田国際空港（19：40）着

研修のしおり：https://lead2024.qc-plus.jp/studytourlead.html

研修の目的



LeaDがルワンダ研修で大切にしているのは、まず「経験すること」です。国際協力や途上国の様子について、皆さんも本やインターネットで調べたことがあるかもしれません。でも、実際にその場所を訪れ、そこで暮らす人たちの話を聞いてみると、これまで知らなかったことや想像していなかったことに気付くものです。

「自分には何ができるのだろう？」

「これから、何をしてみたいのだろう？」

そんな問いに、急いで答えを出す必要はありません。現地を自らの目で見て、生の声を聞き、肌で感じ体感することを通して、自分なりに考えるキッカケを見つけてもらえたらと考えています。そのため、「知識」を深めるだけでなく、そこにいる「人との出会い」を通して体感することを大切にしています。

もう一つ大切にしているのが、参加者自身が主体的に取り組むことです。事前にLeaDと相談しながら、自分が関心を持っていることを研修テーマに設定し、現地で何を見たいのか、何を知りたいのかを考えていくことで、自主性を発揮できるように工夫しています。答えを教えてもらう研修ではなく、自分で問いを持ち、現地での経験を通して考えていく。そんな学びを目指しています。

LeaD の研修の強み

LeaD の強みの一つは、ルワンダとの長い関わりを通して築いてきた現地との繋がりです。LeaDメンバーには、ジェノサイド前の青年海外協力隊経験者や JICA 専門家経験者、ルワンダで調査を行った研究者やプロジェクトを実施してきたコンサルタントなどがいます。特に、国際協力における教育分野での経験が強みです。

また、LeaD はルワンダ東部州の農村地域において ECD 改善の取り組みを続けています。こうした活動を通して築いてきた現地の人々との繋がりや信頼があるからこそ、通常の旅行ではなかなか訪れる機会のない農村地域で、地域に根ざした活動や人々の暮らしに触れる経験を提供できます。

今回の研修では、滞在期間のおよそ半分が地方での活動でした。地方農村の様子は首都と大きく異なると当然のように耳にしますが、それは具体的にどのような状況なのか。LeaD の研修では、単なる視察に留まらず、現地 NGO との交流や農村家庭を訪問し、そこで暮らす人たちと直接お話をする機会を設けるなどして、可能な限り人との出会いや対話を通した学びを提供しています。

事前研修

海外やアフリカが初めての方も、事前に必要な情報を得て準備を進められるように事前研修を実施しています。

今回は、５月から７月にかけてオンラインで実施しました。前半はルワンダ情報や安全対策、健康管理などの基本講習で、後半には参加者が自分なりの研修テーマを考えました。子どもに関することや教育、ODA 事業、インフラなどのテーマが設定され、各自が課題意識を持っての渡航となりました。





＊ルワンダ研修で訪問する場所は赤枠

現地研修



現地研修序盤は、首都で少し体を慣らします。日本から 20 時間以上にわたる移動、そして標高 1,300m のキガリでは、到着後すぐは疲れやすいので無理は禁物です。JICA 事務所で国際協力のお話を聞き、世界遺産の Genocide Memorial や映画の舞台となったホテルなどを見学しながら、想像と違って発展した首都キガリの状況に驚いていた学生が多かったです。

中盤はいよいよ地方です。貸切バスで約２時間の所にある東部州の Kabarondo が、今回の地方活動の拠点です。

LeaD の現地パートナーである現地 NGO ”Akagera Good Neighbors（AGN）”や”Ready for Reading”、”Hirwa Foundation”と協力し、彼らの草の根活動を視察したり、話を聞いたり、文化交流や家庭訪問をさせてもらいました。

今回の研修では、現地を訪れて話を聞くだけでなく、参加者自身が交流活動を企画しました。AGN が支援する子どもたちとは習字体験を行い、現地の私立学校では参加者が手作りした輪投げで一緒に遊びました。言葉や文化が違っても、同じ活動を通して笑顔が生まれる。そんな交流も、現地で実際に経験するからこその学びです。

現地で人々と交流する中で、英語を使ったり、現地語を覚えて話し掛けたり、共に笑ったり、悪戦苦闘しながらも「積極的に理解しようと努める姿」には、この研修の意義が感じられました。
上記はこの研修の一部です。ここに書き切れませんが、このように LeaD では現地へ足を運ばなくては得られない貴重な経験を提供できるように取り組んでいます。

ルワンダでの経験を次の一歩へ

ルワンダで過ごす 11 日間では、怒涛の如く新しい発見や出会いが押し寄せてきます。様々な経験を通して、新たな自分を発見したり、自分が関心を持っていることを深く考えたりする機会が生まれます。新たな発見が自分の世界を拡げ、次への一歩となっていきます。拓殖大学のホームページに、参加者の感想を含む詳しい報告が紹介されています。ぜひ、そちらもご覧ください。
https://fpse.takushoku-u.ac.jp/news/nid00005408.html

LeaD では春や夏を中心にルワンダでの Field Study 参加者を募集していく予定です。今回は大学主催の海外研修を請け負うような形でしたが、LeaD 主催で募集を掛ける場合もあります。
「ルワンダに行ってみたい」
「海外で、普段とは違う経験をしてみたい」
「自分の関心を、もう少し深く掘り下げてみたい」
そんな方は、ぜひ気軽にお問い合わせください。

次にルワンダを訪れるのは、 この記事を読んでいるあなたかもしれません。　　松山

AGNが支援する子どもたち



協力隊（水の防衛隊）活動現場の視察



AGNでの交流活動（習字）



里親プロジェクト「ウムサポ」報告　　11年ぶりの訪問



今年の 8 月末から 9 月初めにかけて、ルワンダに行ってきました。この11年の間に、ものすごい発展を遂げたことを目の当たりにして驚きの連続でした。でも、それと同時に、取り残されているものもたくさんありました。一日以上続く停電、毎月お金を払ってポンプから水が汲める子、お金が払えなくて川から水を汲む子。高層ビルは建っても、生活は安定していない現状がありました。

ウムチョムイーザ学園にも 11 年ぶりに訪問しました。コロナを経て、どうなっているかな？と思っていましたが、子どもたちの元気な顔を見てホッとしました。



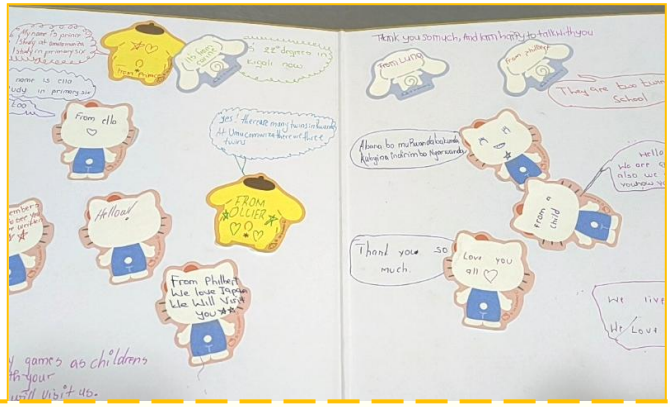
「ルワンダ語で勉強するの？」と聞いたら、「あのね、英語でやる授業と、フランス語でやる授業があるんだよ。」と子どもたちが教えてくれました。公用語がフランス語から英語に変わったいま、どうやら、英語とフランス語の両方が話せるようになることが、私立学校の売りになっているようです。そして、今年は、学校の運営団体である ADESOC の理事長が変わり、新しく女性の理事長が誕生しました。

11 月 7 日 MOU(覚書)締結！

帰国後、Zoom ミーティングで話し合いを持つことができ、11 月 7 日には、ウムサポの MOU(覚書)が締結されました。これからも、コミュニケーションを取りながら、より良い支援の形を作っていこうと思います。

また、今回の訪問で、私の運営する子ども食堂の子どもたちと、ウムチョムイーザ学園の子どもたちがメッセージを交換して交流をもつことができました。世界を感じるきっかけになってくれたら嬉しいです。

宍戸なつみ





子どもたちからお礼のメッセージ

里親プロジェクト「ウムサポ」寄付募集

～里親制の就学継続支援「ウムサポ」に特化して支援したい人向け～

ウムサポでは、3 つのコースを用意しています。

1.	給食支援コース	月額 2,000 円
2.	授業料支援 A コース	月額 2,500 円
3.	授業料支援 B コース	月額 5,000 円

○　「ウムサポ」支援にご協力いただける方は、右の QR コードから、登録してください。
　担当より、連絡させていただきます。

LeaD は皆様の温かいご支援とご協力によって成り立っています。

子どもたちの未来を支えるために、私たちができることを。

LeaD は、子どもたちの成長を支えるために国内外で様々な支援活動をしていきます。

日本国内においては、子ども食堂や学習支援活動等を通じて子どもたちの成長を支援し、海外では、途上国の農村部のように支援が届きにくいところへ教育を中心とした支援を進め、子どもたちが夢を描き、成長できる環境づくりを進めていきます。

どの地域に生まれ育っても、すべての子どもたちが平等なチャンスを得られる社会を目指しています。LeaD は、支援の届きにくい場所でこそ、その力を発揮する NGO です。

皆様のご支援が、子どもたちの未来を切り拓き、より良い社会をつくる力となります。

年会費(賛助会員)募集

個人会員　一口　5,000円　　**法人・団体会員　一口　10,000円**

学生会員（大学生まで）　一口　1,000円

頂いた個人情報は、当方にて厳重に取り扱い、本人の同意なく他者に情報提供することはございません。

振込先

GMO あおぞらネット銀行　法人営業部　普通預金　2141123
口座名義 ： トクヒ)ラーニングアズディベロップメントフォーオール

東京信用金庫　江戸川橋支店(016)　普通預金　4076843
口座名義 ： トクヒ)ラーニングアズディベロップメントフォーオール

会員・寄付申し込みフォーム

今年度から「会費ペイ」を通じて、クレジットカードまたは口座自動振替による会費支払い方法(自動更新)を導入しました。引き落とし日は、26日となります。(ウムサポの支援金は対応しておりません)

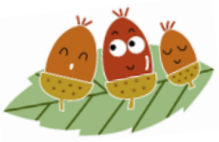
＊LeaD は現在「(特例)認定 NPO 法人」ではないため、寄付控除はありません。

皆様のお力添え、何卒宜しくお願い致します。詳しくはホームページをご覧ください。

- 編集後記 -

LeaD 会報３号をお読みいただきありがとうございます。また、原稿・写真のご提供などいただきました方々には心より感謝申し上げます。

１年１年のみんなのチャレンジが、このような形で報告できることを幸せに感じます。これからは、まわりの人たちにも私たちの活動を知っていただき、仲間を増やして異文化を理解しルワンダの子ども達に笑顔が増えることを願っています。



会報係力を合わせて、これからも「楽しい！感動！」を言葉と写真で皆様に届けます。お楽しみに。

今後とも会員皆様のご理解とご協力の程をよろしくお願い致します。　-MS-

特定非営利活動法人
Learning as Development for All

理 事 長　小野　由美子
副理事長　宍戸　なつ美

E-mail：lead20240924@gmail
https://lead2024.qc-plus.jp/index.html